

アナログ技術若手に伝授

06.1.19 読売新聞

団塊世代
大退職

群大で育成講座

製造業OBら講師

団塊世代の熟練技能者が大量に退職する一予見を前に、群馬大学工学部（桐生市）で、県内製造業の若手技術者を対象に、製造業OBら講師による「アナログ技術人材育成講座」が始まった。

近年はデジタル技術全盛期だが、半導体などの業界では、デジタルの計算機が上がるのに伴い、駆逐されてきたアナログ技術の知識が、逆に重要となり始めているという。県内には関心を持った動きを受け、県産業支援機構が経済産業省から中堅技術者一人ずつに講座を行われた。

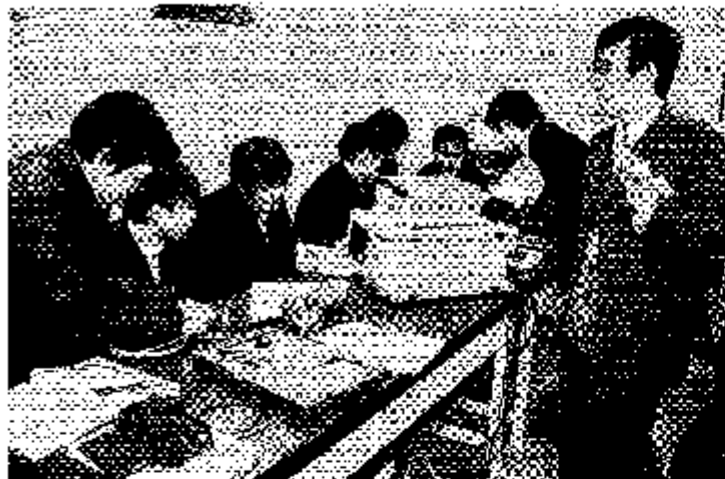
講座には、県内の15企業から中堅技術者一人ずつと大学院生20人が参加し、10日間で計60時間の講義が行われた。工学部教授や企業OBら約15人が指導にあたり、理論からコンピュータを使ったシミュレーション、測定の実習なども徹底的にアナログ技術をたたき

込んだ。

指導にあたった製造業OBには「各企業で実務をこなしつつある問題ながら、生徒らは真剣なもの。やりがいがある」と好評だ。

7月からは順次、別のアナログ技術を教える講座（各回時間）を行う。

同大工学部の山越芳樹教授（電気電子系）は「デジタルの人材育成は2、3年ではできず、アナログの人材育成には10年かかる。業者の底上げを図ることで、業界全体への良い波及効果が生まれるだろう」と話している。



熱心に高周波の測定実習を行う受講生ら（群馬大学工学部で）

くま

